

学校見学（1）

5月の連休が終わる頃、5月病が現れる時期です。せっかく努力して入学したのに学校に行かなくなった学生のことを、風の便りで聞くことがあります。自ら選択した道であっても、安易な進路選択であれば、それで休学や退学になっているケースも少なからずあります。文部科学省の調査でも、毎年8～9万人の退学者がでてるといわれています。やはり、生徒にしっかりした志望動機づけをするために、学校訪問・学校見学がよい機会となります。

現在、私立大学で定員割れしている学校は約45%、私立短大で定員割れしている学校は約65%にのぼり、大学全入時代といわれています。そういう時代ですから、学校を訪問することで志望動機が強くなり、より一生懸命に受験勉強や日々の学習に励む姿を、いくつも目にしてきました。ですから夏休みの部活動や勉強の息抜きに学校訪問、学校見学することを勧めます。ただ、漠然と学校訪問、学校見学してもしかたありません。特に、学校見学会は見せるための学校見学であり、外向けの顔であり、実際の学校の雰囲気と大きく異なる場合があります。実際に学校訪問や学校見学に行く場合、次のような点に注意しながら行きましょう。

○学校の個性(校風や伝統等) ○学部・学科 ○取得可能な資格と取得状況 ○就職状況、大学院への進学状況 ○転部・留学制度の有無 ○入学金、授業料、実習代、寄付金 ○活躍している卒業生 ○入試制度 ○施設・設備 ○奨学金制度

などが考えられます。なかでも学校の個性について考えてみましょう。学校の個性は、人間に個性があるのと同様に、各大学、短大、専門学校にも個性(=特色や伝統)はあるものです。

学校の個性を考える場合、①学校の設置主体(法人)、②校風や伝統(スクールカラー)、③教育目標などを上げることができます。例えば、学校設置主体から見れば宗教系の学校に特色が出やすいと思います。仏教系や神道系の大学では、国文学、中国文学、歴史学、仏教学、神道学、日本史、東洋史などの研究に学校の特色が現れます。ミッションスクール(キリスト教系大学)では英語、スペイン語、フランス語、ラテン語、西洋史、キリスト教学などの研究に学校の特色が現れます。また、宗教系の学校には宗教的行事(座禅、チャペルアワー、クリスマス礼拝など)のある学校が一般的です。

スクールカラーから見れば東大、京大のような旧帝大、東京6大学の早慶明法立、関関同立などの学校は、創立から現在に至るまでの過程のなかで校風、伝統が創られ、引き継がれて学校の特色となっています。例えば東大と京大で両校を比較すると、東大には日本の頂点に立とうとする指導的役割を担う自覚が強く、カリキュラム面でも多くの必修があり、3年次に進級するのに進振りの関係(2年次までの履修修得や成績で学部学科が決定される)で、ほとんど学生が2年次までに多くの科目を履修修得していきます。これに対して京大は、東大と比較すると在野・反骨精神、革新的精神に富んでおり、非常に自由な校風を感じます。

専門学校でも歴史のある学校には個性を感じさせる学校があります。今回は専門学校の個性について述べたいと思います。



藤井四段の快速撃から

最近、将棋界を騒がしているのが藤井聡太四段です。彼は現在、名古屋大学教育学部附属中学校に在学しています。昨年10月に加藤一二三九段の持っていたプロ棋士デビュー最年少記録を14歳2ヶ月で更新し、プロ初戦でその加藤九段に勝って公式戦の連勝記録を伸ばしています。また、公式な対局ではないのですが、3月から4月にかけてAbemaTVが企画した「藤井聡太四段 炎の七番勝負」で2016年新人王塚田四段、永世棋聖の佐藤康光九段、永世称号6つの羽生善治三冠らと対局し、6勝1敗という戦績を残しました。間違いなく次世代の将棋界の牽引者が出てきたといえましょう。藤井四段が果たしてタイトルを取るのは何歳になるのかが話題になっています。集中力の谷川、マジック(終盤劣勢を逆転する)の羽生といわれますが、藤井四段は読みの正確さは凄いとわれています。

将棋界で谷川九段、羽生三冠、藤井四段に共通しているところは、子どもの頃、将棋に関しては負けず嫌いの面が見られるところだと思います。谷川九段は子どもの頃、兄(後に東大将棋部で活躍したアマ棋士)に負けると悔しがって将棋の駒を噛んだそうです。羽生三冠は子どもの頃、負かされた相手を仁王立ちで睨んだそうです。藤井四段は奨励会(将棋のプロになるため六級から三段まである)に入りたてのときに6連敗し、母親と一緒に帰るとき、号泣したという話が残っています。負けず嫌いとは棋士ばかりではありません。勝負のかかるスポーツ選手などほとんど負けず嫌いの性格だといわれます。そうでなければ、勝負に負けたのに、その競技を続けることはできないからです。しかしながら研究者や企業のトップにも、負けず嫌いが多くといわれています。

出来ないことが悔しくて出来るまで練習しようとする。天才なんていない。日々、その道に努力しつづけ、最終的に勝った人がいるだけです。とりちがえていけないのは、スポーツや将棋、囲碁などの場合は、自分に勝つことは他人を負かすことになりませんが、勉強の場合、他人を負かすことではなく、自分に勝つこと、自分を高めることが大切です。自分の志望校に合格するために日々努力することが大切です。負けてしまった、失敗してしまった、間違えてしまったという事を、再び起さないような策を立て、克服に向けて努力することが成功の秘訣です。成功した人の共通点は自分を客観的に見られるかどうか大きな鍵といわれています。

室町時代の能楽師世阿弥の言葉に「離見の見」という言葉があります。これは能や歌舞伎の演技者が、自分の演じている姿を観る側から見ることを、すなわち自分を客観的に見ることを示しています。客観的に自分を見ることで長所や短所が認識でき、その短所を課題と捉えて克服していけば成長できるはずです。自分の姿を鏡を見て、まずは自己の課題を認識しましょう。